

ざくろの地

聖書:申8:8. 出28:33-34. 列王上7:18-20. 雅4:3後半, 13前半. IIペテロ1:3-8

I. 聖書において、ざくろが表徴するのは、命の豊満、命の満ちあふれと美しさ、命の豊富の表現です——申8:8. 出28:33-34. 列王上7:18-20. 雅4:3後半, 13前半:

- A. 熟したざくろとその種は、命の豊満と命の満ちあふれと美しさとの印象を与えます。
- B. わたしたちがキリストを小麦、大麦、ぶどうの木、いちじくの木として経験し享受するなら、キリストの命の満ちあふれがわたしたちと共にあり、キリストの美しさがわたしたちの周りにあるでしょう。これがキリストをざくろとして経験することです。
- C. わたしたちは、命において成長して円熟するなら、ざくろとなります——コロサイ2:19. 1:28:
  - 1. わたしたちは、主イエスに対するわたしたちの愛から、進んで彼によって支配され規制されればされるほど、ますます命において成長します——13, 28節。
  - 2. わたしたちは、キリストがすべてを含むこととすべてに拡張することのビジョンを見るなら、わたしたちの全存在をこのキリストに集中させるでしょう。そうすれば、彼はわたしたちを満たし、わたしたちに浸透します——12節. 2:9, 16-17. 3:10-11:
    - a. わたしたちの存在は、広大な、計り知れないほど豊かな、拡張するキリストで占有されます——エペソ3:18。
    - b. わたしたちにとって生きることは、わたしたちを所有し、ご自身でわたしたちを満たし占有するキリストとなります——ピリピ1:20-21前半. エペソ3:17前半。
  - 3. キリストの中で完全に成長することは、キリストで満たされ、浸透され、飽和されることです——コロサイ1:28:
    - a. これは、わたしたちの存在のあらゆる部分がキリストで占有されることです——エペソ3:17前半. ガラテヤ4:19。
    - b. これが命における成長、また命における円熟であり、コロサイ人への手紙に啓示されているキリストを経験した結果です——2:9, 19. 3:4, 10-11。

II. ざくろと金の鈴が、大祭司の上服(召会を表徴する)の底部にありました——出28:33-34:

A. 召会は人性において命に満ちているべきです。これが、亜麻布で作られたざくろの意義です。

B. 召会は人性を、命の豊満の表現のために持っており、また神性を、金の鈴を鳴らすために持っています：

1. 命の豊満は、召会の人性において表現されますが、警告の声は、召会の神性(金の鈴)において表現されます。
2. わたしたちはまず命の豊満の表現を持ち、次に金の鈴の音、すなわち召会の神性から出る語りかけを持ちます。
3. わたしたちの人性において表現される命の美しさと、金の鈴から出る神聖な音は、正常な召会生活のしるしです。

III. 宮の柱の頂にある柱頭を囲む二百のざくろは、命の豊富の表現を表徴します——列王上 7:18-20 . 歴代下 3:15-16 . エレミヤ 52:22-23 :

A. 自分自身を裁く者(青銅)と、自分自身を無と考える者は、<sup>ざくろ</sup>錯綜した複雑な状況(格子細工の網と鎖細工の飾りひも)のただ中で、完全に責任を担うことができます。なぜなら、彼らは自分自身によってではなく、神にある信仰(ゆりの花の細工)によって生きるからです。ですから、彼らは二百倍の命の豊富(ざくろ)を表現します——列王上 7:15-22。

B. 百個ごとのざくろのうち、九十六個が空中に露出しており、四個が覆われていました——エレミヤ 52:22-23 :

1. 命の豊富の表現は永遠に完全であり、復活の新鮮さの中に、またその霊の中にあります。
2. 百個ごとのざくろのうち四個が隠されていたという事実は、わたしたちの天然の存在、わたしたちの天然の命、わたしたちの自己が隠されなければならないことを示します。
3. わたしたちの天然の存在が消え去るとき、わたしたちは、九十六個のざくろ、すなわち、霊的な空気の実際の中にあるキリストの命の豊かな表現を持ちます。

IV. 雅歌によれば、ざくろには、個人の信者とキリストとの愛情に満ちた交わりの漸進的な経験において、霊的な意義があります——雅 4:3 後半, 13 前半. 6:7, 11. 7:12. 8:2 後半 :

A. 「あなたの<sup>りょうほお</sup>両頬は、ボールの後ろにあって、ざくろの片割れのようなだ」——4:3 後半, 6:7。

B. 「わたしはくるみの果樹園へ下って行きました。谷間の新緑を見るために、またぶどうの木が芽を出したか、ざくろの花が咲いたかを見るために」

—11 節。

- C. 「わたしたちは、早く起きてぶどう園に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花が咲いたかを見ましょう。そこでわたしの愛をあなたに与えましょう」——7:12。
- D. 「わたしは……わたしのざくろの果汁からの香料を混ぜたぶどう酒をあなたに飲ませましょう」——8:2 後半。
- E. 「あなたの若枝は、最上の実を結ぶざくろの果樹園」——4:13 前半：
1. キリストが彼を愛する者を享受することにおいて、彼女は閉じられた園であって、あらゆる種類の異なる色の植物を、内なる命のさまざまな表現として成長させ、またさまざまな香りの植物を、円熟した命の豊かな表現として成長させます——13-14 節。
  2. これは主にとって、愛する者の美しさとなります。キリストを愛する者は今や命において豊かであり、実を生み出して養い新鮮にし、甘い香りを放ち、美しい色を展示し、キリストに享受していただきます。
- V. II ペテロ第 1 章 3 節から 8 節には、神聖な性質を享受することを通して持つ、卓越した美德の発展があります：
- A. 「命と敬虔<sup>けいけん</sup>にかかわるすべての事柄」とは、神聖な命のさまざまな面であり、それらは良き地の産物の豊富によって予表されています——II ペテロ 1:3：
1. 命は内側のものであり、わたしたちが生きることができるようにします。敬虔は外側のものであり、内側の命が外側で表現されることです。
  2. 命は内側のエネルギー、内側の力であって、外側の敬虔を生み出します。それは栄光へ導き、また栄光という結果になります。
- B. 信仰は、すべてを含む命の種と考えられ、愛は、その完全な発展における実と考えられるでしょう——II ペテロ 1:3, 8。
- C. 最終的にわたしたちは、命における完全な発展と円熟を持ちます。それは、信仰という種から、美德と知識という根、自制という幹、忍耐と敬虔という枝々を通して、兄弟愛と愛という花と実へと至ります——5-8 節。